

合同

No. 475

「聖書をしっかり読む」

日本キリスト合同教会教師

大井 満



「すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。『先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。』イエスが、『律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか』と言われると、

(ルカによる福音書10章25～26節)

この春から生活が大きく変化しました。40年間の牧師としての働きに一区切りをつけたからです。

学生時代の8年間とアメリカ時代の1年をのぞいて、生まれてからずっと牧師館で暮らしてきましたから、「自宅」と呼ばれるところで暮らすのは、ほぼ初めての経験です。深夜や早朝など時間を問わずかかってくる電話や、不意の来訪者からも、ほぼ解放されました。毎週必ず準備しなければならなかった説教も、この半年で数回だけでした。

では気ままな引退生活を楽しんでいるかというと、そうでもありません。4年目に入ったお茶の水聖書学院の学院長、6月に就任したPBA(太平洋放送協会)常務理事など、これまでとはまた少し違う超教派の世界での責任は、けっこう重いものです。

冗談として読んでいただきたいのですが、主の日の礼拝をどこでささげるかを、毎週考えなければならぬという悩みもあります。

けれども同時に、説教を通して神さまのみことばを聞くことに専念できる恵みは、とてもすばらしいものだと思われています。

先日ときどき出席している他教団の教会の礼拝に、1か月ほど前から予定を立てて(悩まずに)、出席しました。それは、説教者として神学校の同級生が奉仕する予定になっていたからです。彼は同級生といってもわたしより年長で、2年前に引退していましたが、現在無牧となっているその教会を応援するために、月

に一度説教に遣わされているのです。およそ40年ぶりの懐かしい再会であるとともに、お互いがイエス・キリストの十字架と復活の福音に立って、牧師として奉仕してきたことを確認することができた幸いな礼拝でした。

説教題は「あなたは聖書をどう読むか」。そして聖書箇所はルカによる福音書10章25節から37節でした。中心的な聖句として取り上げられたのが26節で、ここに我々が聖書を読むに際しての重要な二つの態度があると彼は語ったのです。

第一は、「律法には何と書いてあるか」。つまり聖書の言葉をよく知り、調べることです。第二は、「あなたはそれをどう読むか」。読み、知り、調べたことを、ひとりのキリスト者として、受け取り、日々の生き方に反映させるかということです。

わたしたちは聖書を「どう読んでいる」でしょうか。NIVという英語の聖書では、この箇所をこう訳しています。”What is written in the Law?” “How do you read it?” すごくシンプルですよ。何かが書かれているのか、そして「それをあなたはどのように読むのか」。

イエス様はわたしたちに、自分で読んでごらんとおっしゃるのです。自分でしっかり読み、書かれていることを自分のことばで表現してご覧なさいということでしょう。それはもちろん、自分勝手な読み方をし、解釈してよいということではありません。

お茶の水聖書学院には現在、約65名の方が聖書科に在籍しておられます。さまざまな教派・教会の方々です。この方々は、目の色を変えて聖書や神学を学び、吸収し、主と教会に仕える信徒として歩むことを志していっています。教会音楽科にも約15名の方がいらっしやって、奏楽や声楽などを学んでいます。残念なのは合同教会の皆さんの姿がほとんどないということです(教会音楽科で一人学んでいらっしやいます)。

あなたは自分で聖書を読むことができますか。あのパウロはこう言っています。「それで、善をなそうと思う自分には、いつも悪が付きまわっているという法則に気づきます」(ローマの信徒への手紙7章21節)。「気づきます」と訳されている言葉は、「発見する」という意味です。神さまのみことばに真剣に取り組むとき、みことばの真理を発見することができ、喜びと感謝に満たされます。あなたにもこの恵みが用意されています。